

クラウドセキュリティ強化にNetskopeを導入 ゼロトラストによる安全性と利便性の両立を実現

導入事例



人事管理、給与計算、勤怠管理、タレントマネジメント等、人的資本マネジメントにまつわる業務領域を広くカバーする統合人事システム「COMPANY」シリーズの開発・販売・サポート等を手がける株式会社Works Human Intelligence。「はたらく」を楽しむ社会を実現するために、HRテック業界を牽引するリーディングカンパニーを目指しています。そんな同社にとって、顧客企業から預かる人事データをはじめとした機密データの保護は最重要事項です。そこで、同社ではゼロトラストセキュリティを実現するSASE (Secure Access Service Edge)/SSE (Security Service Edge) ソリューションとして、Netskopeを導入しました。



機密データ保護強化のため クラウドサービス利用環境のさらなる安全性向上が急務

大手法人向け統合人事システム「COMPANY」シリーズの開発・販売を手がける株式会社Works Human Intelligence (以下、WHI)。クラウドで提供される同システムは、SaaS型ERP市場 人事・給与業務分野でシェアNo.1を記録しています(※2023年度ERP市場 人事・給与業務分野:ベンダー別売上金額シェア。出典:ITR「ITR Market View:ERP市場2025」)。「COMPANYが管理する人事データは、契約ライセンス数にして約540万人分あります(2024年末時点)。セキュリティやプライバシーの保護は私どもにとって非常に重要です」とData & IT Div. Corporate Security Dept.の長谷川淳一氏は語ります。

同社は設立以来、Google ドライブやSlackを初めとするクラウドサービスのセキュリティリスクを抑え、安全性と利便性を両立させてサービスの活用を進め、ビジネスを加速する取り組みをしてきました。この施策の実現にあたり、ルールとして定めていたとしても、特に「気づかないうちに未認可のクラウドサービスを利用してしまわないか」「社員が私物のスマホでSlackを利用するニーズがあるが、うっかりSlackに機密データを添付してしまわないか」といった意図しない情報漏えいのリスクに対応する必要がありました。

そこで、同社では従来の境界防御型のセキュリティに加え、ゼロトラストモデルのセキュリティ対策を実施することが検討されました。

製品の信頼性とクラウド全体を監視可能な 性能面の優位性が導入の決め手に

WHIがゼロトラストセキュリティを実現するSASE/SSEソリューションとして、2021年から2022年初頭にかけて選定・導入したのがNetskopeです。長谷川氏は、「複数の製品、



組織概要

業界

サービス

地域

日本

設立

2019年

従業員数

2,198 (連結)

※2024年12月末時点



株式会社Works Human Intelligence

<https://www.works-hi.co.jp/>



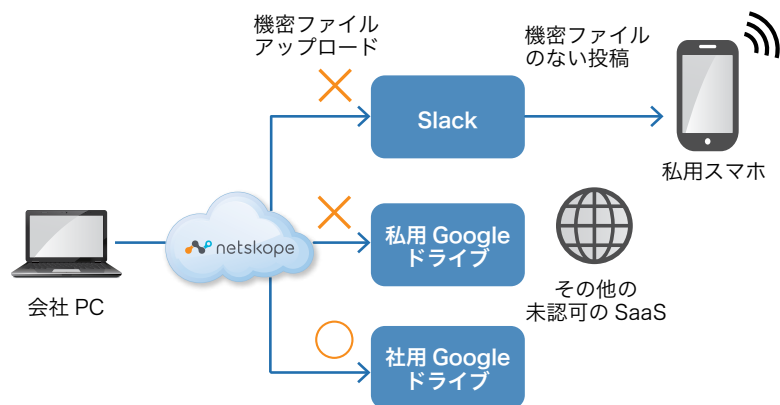
株式会社Works Human Intelligence

Data & IT Div. Corporate Security Dept. / WHI-CSIRT

CISSP・技術士(情報工学)

長谷川 淳一 氏

システム構成図



サービスを検討する中で、まずは機能面と、サービスが安定して提供されていることを重視しました」と選定の決め手について振り返ります。

Netskopeは、導入当時(2022年)のGartner®社のSSE分野におけるマジック・クアドラント*でビジョンの完全性と実行能力を基にリーダーの1社と評価されていました。加えて、機能面でも、一部のクラウドサービスだけでなく、クラウド全体を監視可能な優位性もあいまって、導入が決定しました。

導入に際しては、ミスや無邪気な生産性向上の試みによる情報持ち出しを未然に防ぐことにフォーカスし、監視が不要な部分については敢えて監視から除外する「Exception(例外設定)」を有効活用しました。「開発や経理・財務など、社内の業務が止まることがないように、事前にExceptionに追加する対象を調査し、少数の台数から展開を進めることで、大きなトラブルの回避に努めました」と、長谷川氏は導入時のポイントについて説明します。また、プライバシー保護の面では、Netskopeによる監視について事前に社員から同意を取得した上で、厳密な運用ルールを社内の規則として定めるなど、法と倫理の両面を考慮して進めました。

セキュリティがビジネスのブロッカーではなく、イネーブラーとして機能

長谷川氏は、Netskopeの活用について、期待しているポイントとして以下の3点を挙げます。

1つめは「クラウド利用の可視化と制御」です。URLだけでなく、「いつ」「誰が」「どういう操作をしたか」を可視化し、生成AIへの機密データ書き込みなどリスクの高い操作はNetskopeを使って事前にブロックできることです。「特に私用アカウントによるGoogle ドライブへのアップロード監視が可能なのはSASEに含まれるCASBならでの強みです」と長谷川氏は語ります。

2つめは「認可しているクラウドサービスの制御・監視」です。Slackをはじめ、会社が公式に契約しているクラウドサービスについて、API連携を利用して細かい制御・監視を行っています。「たとえば、GmailについてもAPI連携し、社用のメールアドレスから個人のメールアドレスへの機密データの送信を監視することができています」(長谷川氏)

3つめは「クラウドサービスのリスク管理強化」です。サービスの利用申請が提出された際、当該サービスをNetskopeのクラウドサービスリスク評価(Cloud Confidence Index: CCI)により評価する運用を行っています。「クラウドサービスのセキュリティ評価のばらつきや評価工数の削減に寄与しています。安全性が確認されていないクラウドサービスの利用については、Netskopeのリスク評価に基づき利用を不承認とすることで、適切な管理が行えています」(長谷川氏)

これにより、Slack、GitHub、また生成AIなどの安全なビジネス活用が進められるようになりました。セキュリティがビジネスのブロッカーではなく、リスクを抑えて安心して利用可能にするイネーブラーの役割を果たすことに、Netskopeが貢献しています。

安定的な運用を可能にする運用改善のフェーズへ パートナーSOCサービスにも期待

今後は、より効果的な運用を行う「運用改善のフェーズ」が大きなテーマとなっています。これまで、通信の監視については業務を導入時に止めないことを優先してExceptionを有効活用してきました。しかし、Exceptionが広範囲にわたると「一部のクラウドサービスについては、アップロードが検知できないケースがあったため、その改善を検討しています」と長谷川氏。加えて「補足、監視できるサービスの拡大に注力し、さらなるセキュリティリスクの軽減を実現していきたいです」と、今後の展望について話します。

また、導入パートナーである東京エレクトロデバイス(以下、TED)のSOC(Security Operation Center)サービスについても、「Netskopeの運用と監視を、すべてを自前で行うには限界があります。ですので、TEDのサービスには非常に助けられています」と長谷川氏は話し、「すでに誤検知のフィルタリングなどを実施してもらっていますが、今後、Netskopeに関する定例会が本格的にスタートすることで、さらなる運用の改善に期待しています」と締めくくりました。

安全性と利便性の両立により、社員が「はたらく」を楽しめる環境を提供する。目指すビジョンの実現に向け、WHIの取り組みは今後も続きます。

* Source : Gartner®, Magic Quadrant™ for Security Service Edge, Charlie Winckless, Thomas Linternuth, Dale Koeppen, Charanpal Bhogal, 20 May 2025

Gartner®, Magic Quadrant™ for Security Service Edge, John Watts et al., 30 March 2022 (This research has already archived.)

(Netskopeは2022年から現在まで、連続してリーダーの1社として評価されています)

GARTNERは、Gartner, Inc.および/または米国とその他の国におけるその関連会社の商標およびサービスマークであり、MAGIC QUADRANTは、Gartner, Inc.および/またはその関連会社の登録商標であり、本書では許可を得て使用しています。All rights reserved. Gartnerは、Gartnerリサーチの発行物に掲載された特定のベンダー、製品またはサービスを推奨するものではありません。また、最高のレーティング又はその他の評価を得たベンダーのみを選択するようにテクノロジーユーザーに助言するものではありません。Gartnerリサーチの発行物は、Gartnerリサーチの見解を表したものであり、事実を表現したものではありません。Gartnerは、明示または黙示を問わず、本リサーチの商品性や特定目的への適合性を含め、一切の責任を負うものではありません。



SASEのグローバルリーダーであるネットスコープは、ゼロトラストを原則としてAI/MLを活用したデータ保護を行っています。サイバー脅威から企業を守り、セキュリティとパフォーマンスを妥協することなく両立し最適化に導きます。1つのプラットフォームで新たなエッジネットワークの構築、リスクの低減、そしてあらゆるクラウド、ウェブ、アプリケーション通信において卓越した可視性を提供します。詳しくはnetskope.com/jpをご覧ください。